

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|----------|
| 事業所番号 | 4270202882 | | |
| 法人名 | 有限会社 グリーンケアはりお | | |
| 事業所名 | グループホームかえでえ荘 | | |
| 所在地 | 長崎県佐世保市針尾東町977-5 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年2月8日 | 外部評価結果確定日 | 令和5年4月6日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| 木造平屋建ての施設で、温もりのある環境の中でゆったりとした生活支援を行っている。 |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhouyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=4270202882-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社 医療福祉評価センター | | |
| 所在地 | 長崎市弁天町14-12 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月20日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| かえで荘は梁や壁、床全てに木を用いた木のぬくもりを感じる施設である。共有空間は広いスペースが確保され天井も高く開放的であり、畳の上がりは季節の飾りを飾ったり、入居者様の踊りを披露する舞台として活用されている。また、かえで荘は、別法人となるが同じ系列で運営している他業種の事業所が複数あるのが特徴的である。その中でも障害者就労支援事業所と提携しており、毎日の入居者様の食事と洗濯を委託している。食事の調理は手作業のため手作り感があり、また調理は完全委託ではなく、スタッフがかえで荘の厨房でご飯や味噌汁を準備し、各入居者様の状況に合わせて粥ご飯や配達された具材の刻みなどの個別対応を行い盛り付けを行っているため、食事の支度をする時の家庭的な雰囲気が保たれている。少数のスタッフで対応する必要がある中で、食事や洗濯を外部に委託することで入居者様への支援に集中するための工夫された取組となっている。 |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設内に理念を掲示して、意識づけを行うようにしている。日々の支援の中で実践できるように努めている。 | 玄関横の共有空間に、かえで荘の理念を掲示し、毎日の朝礼で唱和してスタッフへの周知を図っている。普段の支援では入居者様に対しテレビなど共通の話題でよく話しかけるなど良い雰囲気づくりを心掛けており、「明るく豊かな環境で心安らぐホームづくり」の理念を実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ感染予防の為、交流は行えていない。 出勤時に挨拶を交わす程度 | 新型コロナウイルスの感染予防のため外部との交流制限を行っており、国の制限緩和予定の5月以降も感染状況を見ながら当分は制限を継続する予定である。その中でも地域との交流維持のため町内会の清掃活動の実施再開後はスタッフが参加する予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍の中、地域行事もなく、認知症の方の理解や援助方法を伝える場がなく、実施できていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 集まっの会議はできていないが、書面をもって状況を報告し、意見交換を行っている。 | 現在は新型コロナ感染防止のため書面による報告形式としており、対面実施の際に参加する5名に対して郵送で報告を行い、返送により意見と署名をもらっている。5月には昨年8月に管理者が交代して以降、初めて対面の会議を実施する予定である。 | 5月以降は運営推進会議を対面で開催予定とのことで、参加者とのやりとりや意見が増えることが予想される。ご家族様にも運営推進会議の開催や内容について、毎月の個別の手紙や請求書の郵送と共に報告を行うことでかえで荘の取組をより知ってもらう機会とすることに期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 包括等と連絡を取りながら空き状況のやり取りを行っている。他の事業所とも意見交換を行いながら、情報共有に努めている。 | 佐世保市役所との連携としては主に入居者様の生活保護や加算が外れたときに提出する書類の作成について相談している。また地域包括支援センターとは随時空き室状況の連絡を行っている。今後は地域のグループホームとの情報共有を行うため、グループホーム協議会への参加を検討している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 原則身体拘束は禁止であるが、玄関・裏口の施錠は、大事故につながる可能性がある為、施錠している。入居者様に危険が生じると判断した際は、職員間で討議し、ご家族の同意を得た上でセンサー等を使用している。 | かえで荘は交通量が多い道路に面しているため安全面を考慮し日中も玄関と裏口を施錠している。入居者様が外出を希望される時はスタッフが付き添い敷地内を散歩している。身体拘束禁止だが歩行が不安定で転倒のリスクがある入居者に対しては夜間のトイレの際に夜勤者が付き添うため、事前にご家族へ説明して同意書を取り、ベッド横に人感センサーを設置している。過去1年間に身体拘束は発生していない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日頃より職員一人一人の行動や言葉かけが虐待に繋がらないか注意し、意識しながらケアを行い、相談しあえる関係性の構築を図っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が中心となり、必要性があるときには、担当行政等に相談しながら申請等を行う際に、学ぶ機会を作っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に契約の説明を十分に行い、理解・納得して頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ感染防止の為、面会や家族会議は行っていないが、電話での意見・要望を受け止め、運営に反映できるように努めている。 | 新型コロナ感染防止のため家族会議や直接の面会は行っていないが、ご家族様から入居者様の体調を心配する意見があった際は病院で受診と検査を行い、内服薬を調整するなど対応を行った。また、定期的にご家族へ電話してご家族と継続的に連絡をとりご家族様が意見を言いやすいよう心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティングで意見や提案する場を設け、反映させている。 | 毎月の職員ミーティングは夜勤者以外全員が参加し、意見を集めている。また、ごみ置き場の破損やトイレの故障など現場のスタッフからの報告には随時対応している。勤務のシフト作成時には各スタッフの希望休や夜勤の希望を聞き、可能な限り反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人員の確保に努め、給与や労働時間・有休取得ができるように努めている。個々の能力・向上心など適正に評価し、やりがいをもち業務に取り組めるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加を呼び掛け・促しを行っているが、参加できていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現状、交流はできていないが、関連施設との意見交換を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントだけではなく、傾聴を行うことで、要望などを聞き、職員間で情報を共有し、安心した生活が送れるように支援に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 御家族の意見や要望をしっかりと受け止め、聞いたことは職員間で共有し、より良い関係を保てるように努める。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 状況を見極め、必要としている支援サービスに対応できるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | できることは手伝って頂き、感謝の気持ちを伝え、共に寄り添って行ける関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月の手紙で、状況報告を行い、ご家族に協力をお願いし、共に支えていく関係性を築ける様に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で、面会を控えていることもあり、電話での交流ができるようにしています。携帯電話を持っているご利用様は自由に連絡をされています。 | 入所時に入居者様の馴染みの関係を確認したり入居者様本人から日々の支援の中で話を聞いたりして把握している。コロナ感染対策としてご家族様との面会はオンラインで実施していたが、ガラス越しの面会が可能になってからは直接の訪問が多くなった。面会時はガラスの隙間からホース型の助聴器を通し、耳が遠い入居者様にもご家族様の言葉が直接届くように工夫した支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤立しないようにホールで過ごして頂く時間を多くしています。ご利用者様同士の関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合いながら支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 管理者が中心となり、退去後も関係性を大切に、相談などがあれば対応できるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人様のペースに合わせて、要望や意向に添った支援ができるように日々の関りの中で、把握し職員間での情報共有に努めている。 | 日頃から入居者様の生活習慣を把握しているので、言葉ではなくても体を動かすなど何らかの意思表示がされたときに何の意思表示をされているのか理解できている。また、入居者様の言っていることを否定せず、いったん受け入れて、話をしていく中で安心、納得してもらえるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時の情報をもとに、日常会話の中から、生活歴などを把握し、安心して生活できるように支援に務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタル測定を行い、体調管理に努めている。介護記録や申し送りなどで現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のミーティング時に利用者様の状態を話し合い、情報共有に努め、ケアマネジャーが現状に即した介護計画書を作成している。 | ケアマネジャーは、介護計画作成や見直し、モニタリング等の際は毎月のミーティングに加えて、入居者様の日頃の様子をよく理解している。居室担当者に限らず全体を把握できているスタッフの話を聞き、ご家族様にはコロナ禍のため、電話にて意向をお尋ねしながら作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、個別記録を記入し、職員間で情報を共有して、実践や介護計画の見直しに反映されるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 職員間で情報を共有し、状況に応じ柔軟な対応ができるようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍の中で、地域資源を活用できていないが、施設内で季節に応じた行事を楽しんで頂けるように取り組んでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に1度の訪問診療を行い、協力医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援を行っている。 | かかりつけ医を指定はしていないが、ほとんどの入居者様が協力医療機関が主治医となっている。現在、コロナ禍のため協力医療機関の臨時対応により月1回の訪問診療を行っているが、5月以降はコロナ禍以前のように通院へ戻る予定である。受診の際はスタッフが付き添いをしている。ご家族様への受診の報告は電話と月1回送付している手紙に同封している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日、健康観察・バイタル測定を行い、状態の変化の早期発見に努め、看護職への連絡・相談し、適切な指示・受診へつないでいる。受診の前にはご家族への報告をおこなっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 管理者・看護職員が中心となり、入退院時の情報交換を行い、関係づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に契約の説明を十分に行い、理解・納得して頂いている。その後、入退院時など状態が変わるたびにご家族と話し合う機会を作り、お互いの意向を確認している。自施設で対応を十分に説明できている。地域関係者と共にチームでの支援はできていない。 | 近隣に24時間の訪問診療を行っている医療機関がないため、看取りは行っていない。また、夜間常駐の看護師がいないため、たん吸引など夜間帯の医療行為が必要となったときは入院することになる。このことについては、入居時に説明しており、同意書もいただき、納得の上で入居してもらっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 年2回の消防避難訓練を行い、迅速に避難誘導ができるように努めているが、地震など経験がなく、危機感が薄いため、行っていない。火災等を未然に防ぐための対策として自主点検を行っている。 | 火災等を未然に防ぐよう、毎日自主点検表を使ってのチェックに加え、月に一度防火管理者が自主点検を行うことで、見落としがないよう努めている。火災避難訓練では、コロナ禍前は消防設備会社に参加してもらい、消火設備を実際に使って使い方などのアドバイスをもらっていた。 | 自然災害(地震、大雨、大雪など)が発生したときに入居者様の安全を確保するためにも、自然災害発生時の対策を周知し、避難訓練も行っていくことを期待したい。また、火災避難訓練は行っているが、検証が行われていないため、開催しただけで終わらず、改善へつなげることを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけを行うよう努めている。また、プライバシーを確保できるように取り組んでいる。 | 権利擁護についての外部研修に参加し、スタッフには月1回の職員ミーティングにて伝達しており、必要に応じて個別に伝達している。かえで荘内の雰囲気づくりを大切にしており、雰囲気悪くすると入居者様の不穏にもつながるため、声のトーンや大声を出さず近くで話かけるなど気を付けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様との会話の中で、思いなどを聞いて受け止め、対応している。ケアを行う際には、本人様に伺いながら介護を行うようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務中心にならないように利用者様を中心として安心して過ごして頂けるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に訪問カットを利用している。身だしなみは、配慮しながら介入している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎月の行事食や1日の赤飯など楽しみにされています。食事の準備は職員が主に行いますが、テーブル拭きやトレーの片付けなど手伝って頂いています。 | 手が思うように動かない入居者様は滑り止めのついたトレーや使いやすいスプーンで提供するなど提供の仕方を工夫することで、自分で食事をとることができている。食事中は、水分を取るのが難しい入居者様、食事のとり方にむらがある入居者様などいるが、こまめに声をかけ、好き嫌いについても入居者様にあつた、切り方見え方など工夫して、ほとんどの方が完食されている。毎月の行事食に加え、日頃から季節の食材を取り入れることで食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養は外部の栄養士により管理していただき、食事形態は状況に応じたものを提供し、食事・水分の摂取量を把握し、一日に必要な水分が摂取できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを促し、口腔ケアの状況を観察し、磨き残しがないように、必要な時には介入している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、トイレ内での排泄ができるように支援を行っている。排泄チェック表で確認を取りながら、時間を見て声掛けを行っている。 | 可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援し、おむつを使用している入居者様はいない。また、退院後そのままおむつを使用している方も、多くの方がトイレでの排泄をされるようになってきている。排泄を失敗された場合は、トイレへ案内し、必要なものをトイレ近くに保管しておくことでスムーズに対応できるようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事・水分をしっかり摂取していただき、主治医へ相談しながら、内服調整の他に乳製品や氷水・運動など必要に応じて取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は決められているが、その日の気分や希望にも応じて入浴して頂けるように取り組んでいる。本人様のペースに合わせ、必要な支援を行っている。 | 基本的に日曜日を除く週6日の午前中に入浴することになっている。入浴日は入居者毎に曜日で週2日と決まっているが、入浴前の血圧測定で血圧が高いとき、体調が悪いとき、日中休んでいるときなど様々な状況があるため、決まった入浴日にこだわらず、曜日も時間も可能な限り柔軟に対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後、静養時間を設けている。事前に室温調整を行い、その方の入眠時間を把握し、適切な対応を心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | それぞれの内服薬に対して理解するように努めている。追加の処方があったときには、副作用についても確認し、注意して観察を行っている。服用時には、誤薬を防ぐため、本人確認を確実に行うようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人がえられることを把握し、役割を持って協力しながら生活して頂いている。誕生会など楽しんで頂けるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現状、コロナ禍で外出支援は行っていない。季節に応じて花見や近場でドライブにお連れしています。 | コロナ禍のため、人が多いところには外出できず、かえで荘の周辺の散歩をすることが多いが、状況に応じてドライブで花見などに行くことも考えている。リフト車で車いすの入居者様も外出が可能である。現在、頻繁に外出はできないが、午前と午後にラジオ体操と親しみのある曲に合わせた高齢者向けのリハビリ体操を行うことで、室内でも体を動かして楽しく過ごしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理はしてもらっていない。持っていないと不安になられる方のみ、少額を自己管理されています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、電話をかけたがりご家族からの電話を取り次いでいます。はがきを出される方もいます。携帯電話を持っておられる方は自由に使用しておられます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じて飾り付けをしたり窓際にテーブルと椅子をセットし、外を見ながら過ごして頂きます。居心地の良い環境づくりに勤めています。 | ホールは天井が高く広々とした空間となっており、一角には畳部分があり、イベントの際はここで日本舞踊を披露される入居者様がいたり、季節に応じてひな人形などを飾るといったように、入居者様の楽しみに活用されている。共用部分は夜勤帯にスタッフが清掃し、次亜塩素酸水で拭き上げており、浴室は入浴後に入浴担当者がすぐに清掃するなど清潔が保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内のソファや玄関先の椅子に座りご自分のペースで思い思いに過ごして頂いています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に馴染みの物を持ってきていただき、不安なく過ごして頂けるようにしている。 | 部屋に一人で、こもりきりになることを防ぎ、できるだけホールで過ごしてもらうために、テレビの持ち込みは遠慮してもらっている。居室には、使わないものは持ち込まないようにしており、家族に衣替えもお願いしている。また、お願いできる家族がいない方は、スタッフが衣替えをして、リネン庫で保管している。居室入口に入居者様の作品を飾ったり、好きな動物の写真を飾るなど、居心地の良い部屋づくりをしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全面に気を配りながら、場所がわかりやすいように表記している。 | | |